



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

叡智が世界をつなぐ

多文化理解ウェビナー
異文化間対人スキル養成

教育における言語の役割

2020年9月28日
:ダイバーシティ研究センター
広島大学

杉村美紀
人間科学学部
上智大学

発表の要点

1. 多文化教育における教授言語としての言語の役割とは？
2. 移住の時代に言語の役割はどのように変容しているのか？
3. マレーシアの華文教育と日本の華文教育の比較

発表の流れ

1. 多文化主義と多文化教育
2. 国民教育の下での多文化教育 システム
 - 2.1 マレーシアにおける華文教育の事例
 - 2.2 日本における華文教育の事例
3. 教育における言語の役割の変容
4. 質問

多文化主義と多文化教育



多文化主義と多文化教育

○多様化社会におけるマイノリティ／周辺化された人々の社会的・機会均等

○マイノリティ/周辺化された人々

少数民族、移民、難民、外国人労働者、ジェンダー問題、障がいのある人・不利な立場の人



○多文化教育

少数派/周辺化された人々に均等な教育の機会を与えるため

多様な社会における国民教育政策

国民教育政策の機能

国づくりと人材育成
国家の経済発展

国家言語政策----- 共通語の設立
宗教教育----- 国家アイデンティティの創出
国家的カリキュラム
国家統合

文化表現の多様性の保護及び促進に関する条約に関する議論（2005年）

多文化主義

- 文化の多様性は、豊かで多様な世界を創造し、選択の幅を広げ、人間の能力と価値観を育む
- 持続可能な社会のための源泉
- コミュニティ・人々・国家のための開発。
- 文化活動、商品、サービスはアイデンティティ、価値観、意味を伝えるものとして、文化的かつ経済的な性質をもつと認識し、単なる商業的価値のみにて扱われないとする

保護主義の潮流

- グローバル市場化への対応
- 伝統と地域・土着文化の多様性保護が狭義の保護主義に至る可能性
- 国民国家として文化的アイデンティティを基盤とした国家統合を要求



なぜ語学力が重要なのか？

वसुधैव कुटुम्बकम्

マレーシアにおける華文学校の現在



マレーシア



- 人口：約3,195万人（2019年）
- 民族グループ。ブミプトラ69%、中華系23%、インド系 7%。
- 宗教 イスラム教61%、仏教20%、ヒンドゥー教6%

マレーシアの言語

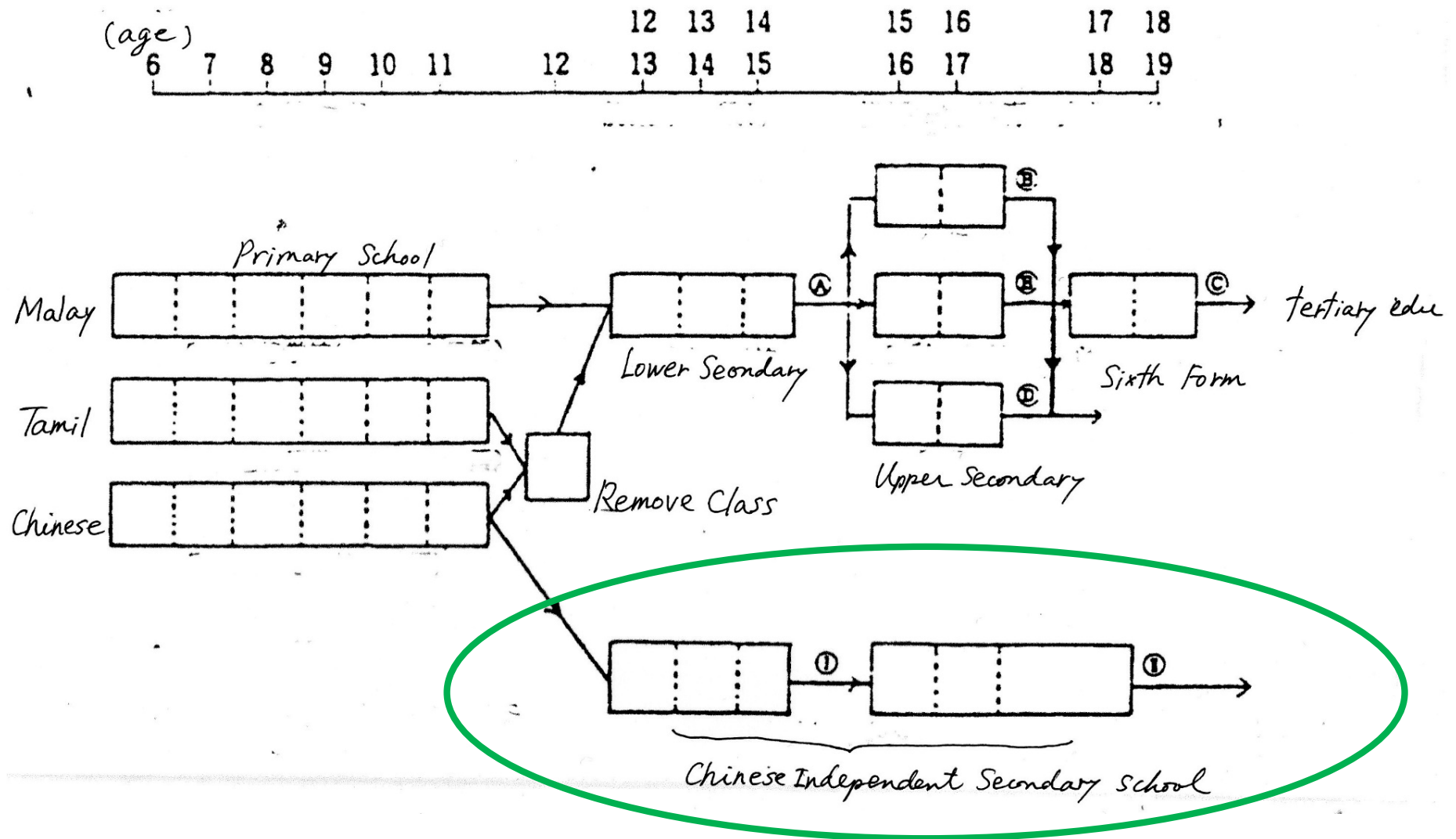
Para penumpang di benarkan membawa hanya (1) satu bimbitan sahaja ke dalam kapal terbang.	Passengers are allowed to carry only (1) one piece of hand baggage into the aircraft.
搭客 只准攜帶 一件 手提行李 登機。	பயணிகள் 1 (ஒரு) கைப் பேட்டியை மட்டுமே விமானத்திற்குள் கொண்டுசெல்ல அனுமதிக்கப்படுவர்

'Laporan Jawatankuasa Mengkaji Penggunaan Bahasa Malaysia', K.L. Kementarian Pelajaran Malaysia, 1981

マレーシアの人々

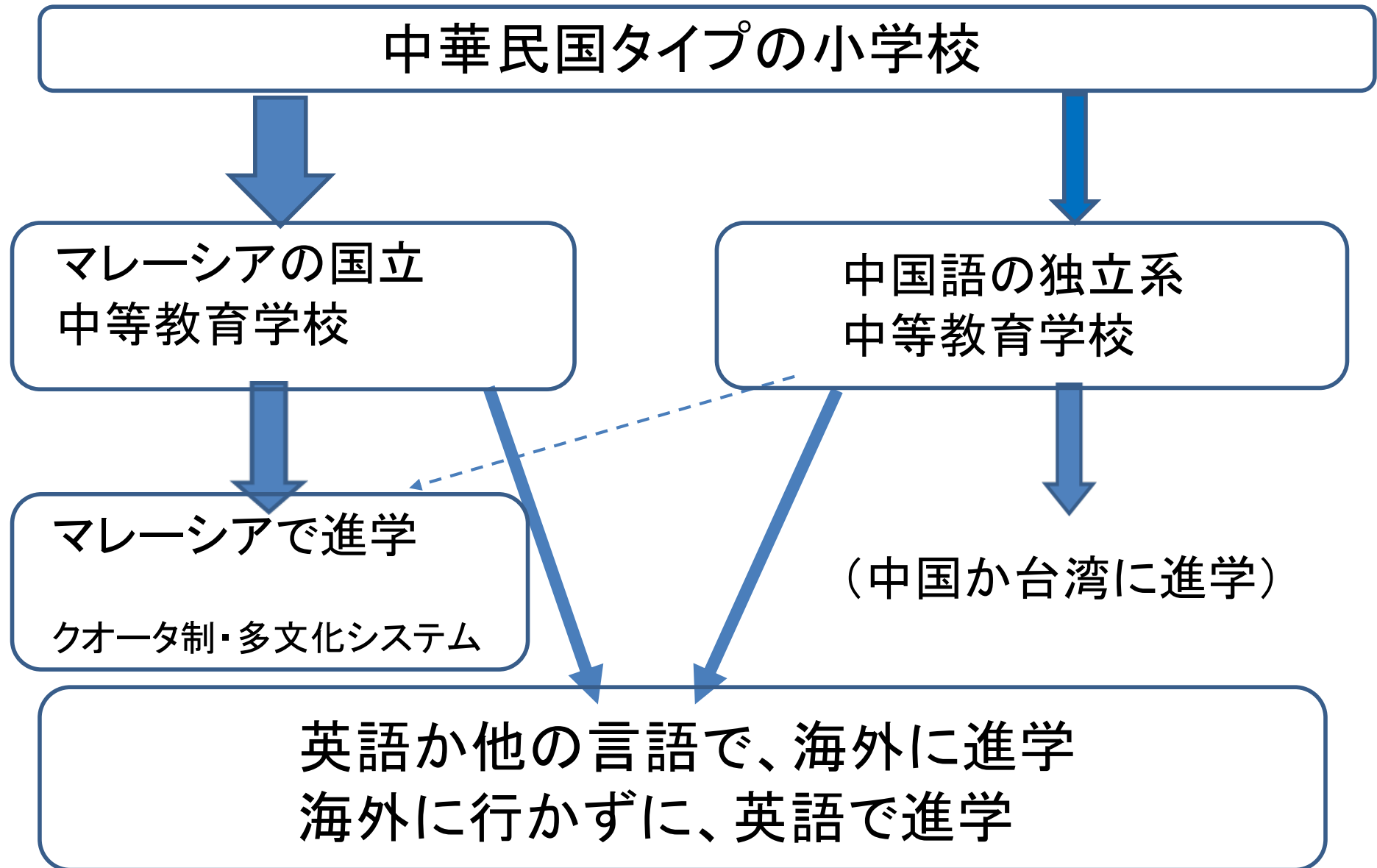


マレーシアの国民教育システム



華文中等教育学校

国家教育政策下における 中国人生徒の選択肢



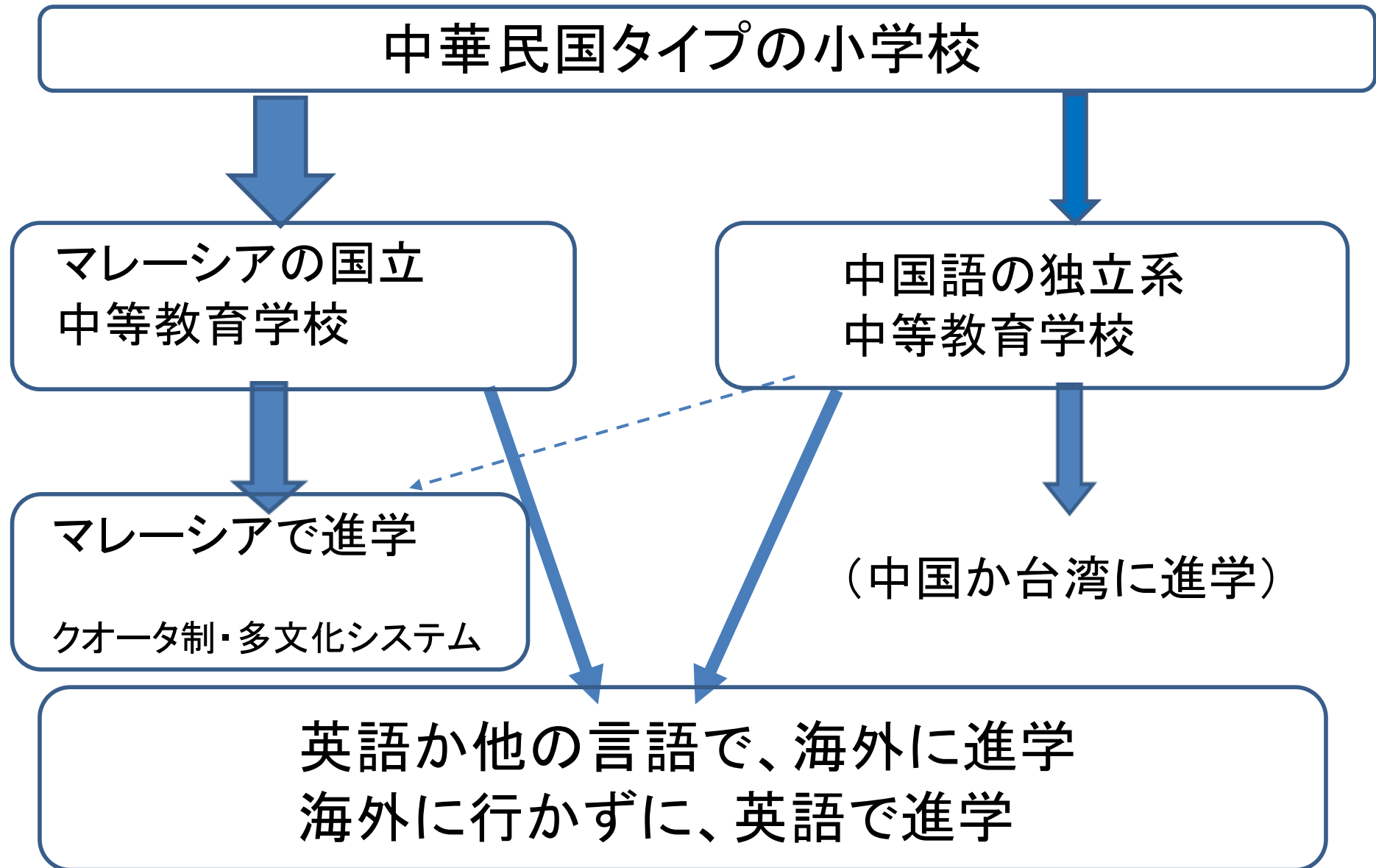
マレーシアの華文学校の最近の変化 国家統合政策と国際化

- ・1957年の独立以来、ブミプトラ政策に基づく国民教育と言語政策によるマレー化
- ・国語--マレー語 国教--イスラム教
- ・多文化主義論争：母語によってマレー人と非マレー人
(中国人、インド人)

国家目標 1)国家のアイデンティティに基づく国家建設と統合の基盤
2)経済発展のための人材育成

- ・ 教育の国際化
- ・ 英語教育を通じた高等教育の国際化プログラム
- ・ 社会文化的状況の変化
マレー人、中国人、インド人の中での新たな対立
外国人労働者・留学生との新たな民族対立

国家教育政策下における 中国人生徒の選択肢



日本における華文学校の現状



日本における華文学校 (東京(1), 横浜(2), 神戸(1), 大阪(1))



華文学校と中国文化

舞龍(横浜山手華文学校)



書道(神戸華文学校)



華文学校のカリキュラム(神戸の華文学校)

地理(中国語で)

歴史(日本語で)



日本にある華文学校の課題

中国の文化とアイデンティティを守るための母語による教育。

中国・台湾をベースにしたカリキュラム

中国/台湾の先生と教科書



外国人学校は正式には認可されていない。

日本の教育法第一条によると、外国人学校は、外国人のための学校として正式には認められていない

- 日本政府からの財政支援がかなり少ない
- 華文学校の証明書は正式なものとは認められない。
- 進学希望者には制限がある。

日本にある華文学校にみる昨今の変容 ----生徒とカリキュラムの多様化

- 中国人コミュニティの変化:旧来(オールドカマー)の中国人の減少と新来(ニューカマー)の中国人の増加
- 日本人の学生を含む中国人以外の学生を受け入れることで、学生の多様化を図る。
- 国際化されたカリキュラムへの要望
 - 中国語、英語、日本語のトライリンガル教育
 - 相互理解の促進
 - 国際化

華文教育の多様な関係性

中国の学校の伝統的な機能
母国語教育
文化の保存

ホスト先の社会との
関係性

世界に広がる中国人コミュニティ
中国語によるつながり

中国／台湾との関係

教育における言語の役割の変容



移民時代の国づくりのための教育の機能

① 平和構築を目指す国づくりのための教育

I. 国家統合 – 国民教育

II. 多様化 – 多文化教育

② 国際化を通じた人材育成のための教育

③ 国際的な移民のための教育

-----多文化教育の変容

国家統合と国家創生のための言語

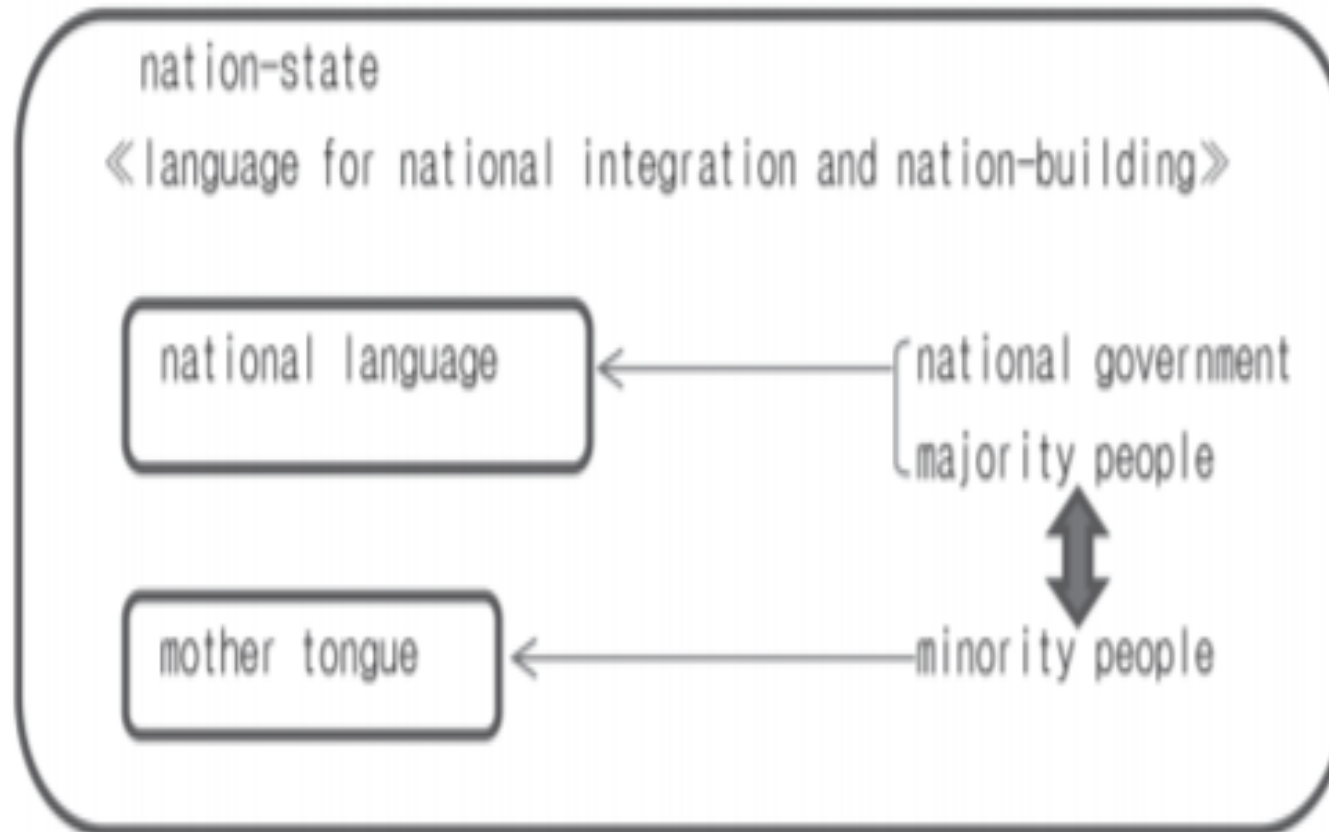


Figure 1 National language policy and the mother tongue of minority groups
Source: Author

国境を超えた言語- 英語化

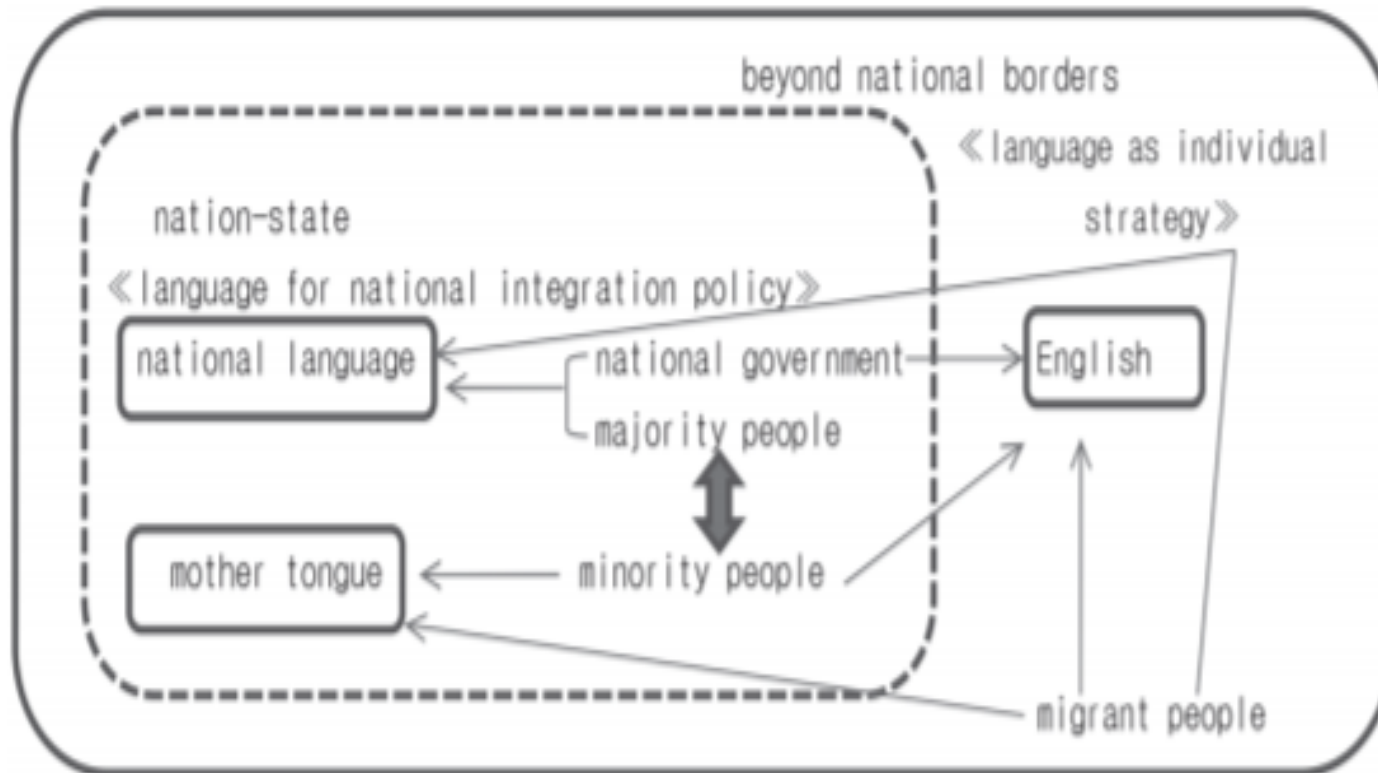


Figure 2 The changing function of language by immigrant groups beyond national borders
Source: Author

国際化と現地化の関係

- 競争のための 国際化 の必要性
人材育成

- 英語化

教育拠点の設置

知識基盤社会の形成

- 現地化 の必要性

- 国家語

国家創生

国家統合

現地文化の保護

国家統合

- ・ **国家語政策と国家宗教**
- ・ 場合によってはアフーマティヴアクションとしてのクォータ制

国際化

- ・ 学生のモビリティ向上による国際連携プログラム
- ・ **英語によるプログラムの増加**
- ・ 目的---教育拠点

→ 国境越えの増加/
超国家的プログラム

→ 生徒らの教育的ニーズ

高等教育の発展

- ・ 多文化モデル
- ・ 質の保証

国家の発展

- ・ 開発のための人材育成
- ・ 知識基盤社会

教育における言語の役割の変容

1. 母語教育の意義

⇒各民族の文化やアイデンティティを守るため



2. 多数派/国語教育の意義

⇒機会と利益を得るための方略を手に入れるため

⇒政府による国民教育

⇒個人の財産としての言語



3. 共通語教育の意義

⇒多文化教育の方略

さらなる問い

- SDGs:ゴール4.7では、インクルージョンと公平性の規範をどのように定義すべきだろうか？
- 教育におけるインクルージョンと公平性の意味の違いを、社会の中の異なるコミュニティ間でどう明確にすることができるだろうか？